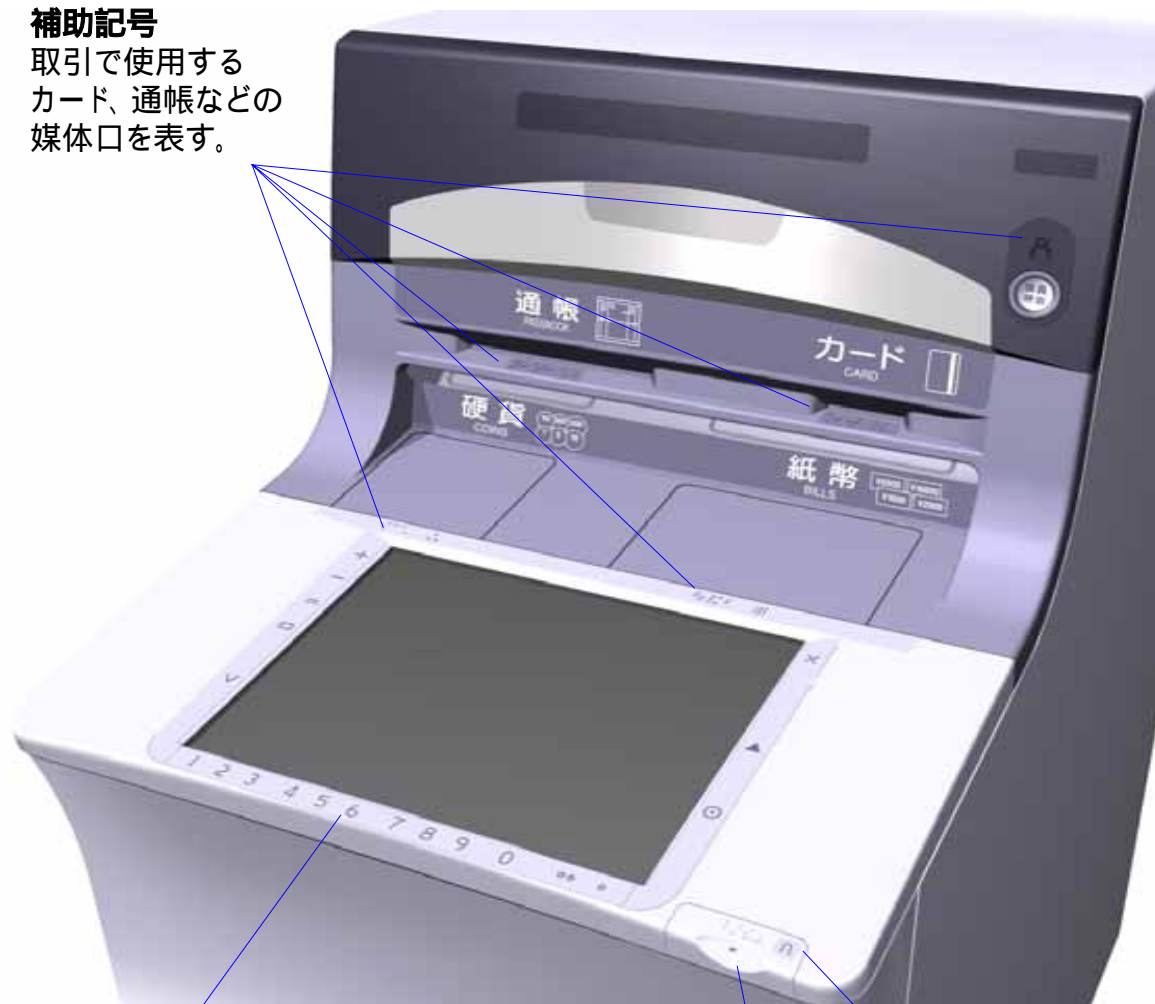


目のご不自由な方に対する対応

触覚記号方式のATMを採用しました

補助記号

取引で使用する
カード、通帳などの
媒体口を表す。



操作記号

画面に表示された
操作キーの機能を表す。

イヤホンジャック

対応機記号

触覚記号対応機であ
ることを表す。

操作の流れ(例)

1. 「対応機記号」を触って対応機であることを確認、同時にモード切替エリアを確認する。
2. タッチパネル画面上のモード切替エリアを押して、触覚モードに切り替える。



3. 音声ガイダンスに従って(イヤホン使用)、タッチパネル画面周りにある「操作記号」で、画面に表示された操作キーの位置と機能を確認してタッチパネル操作する。
4. 「補助記号」で媒体口を確認して媒体の挿入・受取をする。

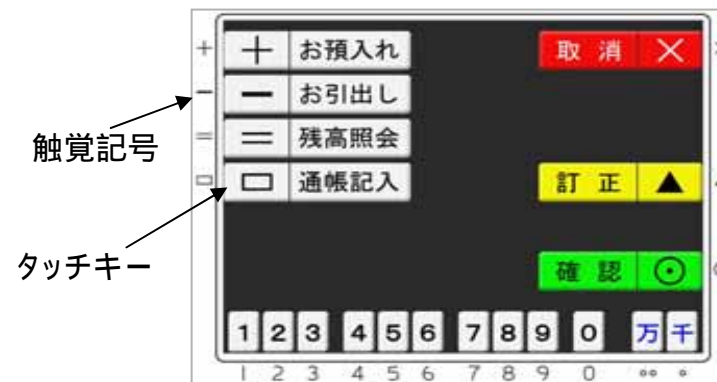


触覚記号を手がかりとした操作

タッチパネル周辺には、タッチパネル上の各押下ボタンを示す触覚記号(操作記号)があり、ボタン位置を示します。また、媒体口近くにある触覚記号(補助記号)は、紙幣と硬貨など間違いやすい媒体口の確認に使用します。

操作誘導のための音声

操作誘導は音声で行います。金額読み上げなど詳細な音声案内はセキュリティを考慮して、イヤホンから聞いていただきます。

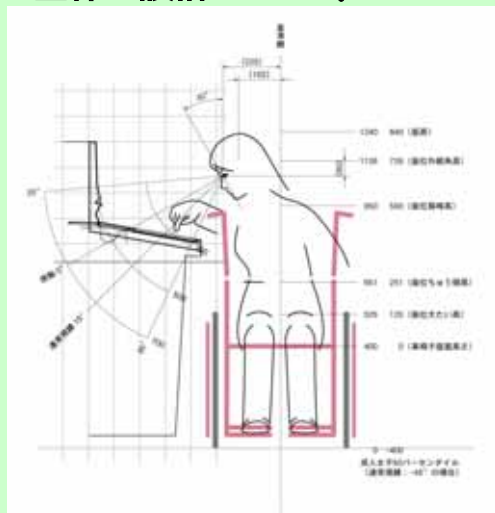


触覚記号として適切なものを採用しました。

- ・触覚的に形を識別しやすい
- ・形から機能をイメージしやすい
- ・覚えやすく忘れにくい

車椅子をご利用の方に対する対応

車椅子使用者の到達性に配慮し、筐体を設計しました。



車椅子ご利用の方へご評価いただき、従来のATMよりも操作性が大幅に改善されました。



配慮点

カード、通帳の出し入れが容易になりました

カード口、通帳口を低くしたため、手が届きやすくなりました。また、媒体口をシンプルな形状にしたため、挿入が容易です。

紙幣、硬貨が取りやすくなりました

紙幣、硬貨が直接、見えなくても、鏡でご確認いただけます。

画面を見やすくしました

タッチパネルがある上目に10°の傾斜を付けました。車椅子の方にとっては、画面をより正面から見る事ができます。

ATMにもっと

近づけるようになりました

フロントを蹴り込み形状にしたため、車椅子の方が、タッチパネルや媒体口により届きやすくなります。

